

身のまわりにある輸入品から国際化を考える

群馬県立大泉高等学校 澤田直也

1. はじめに

現代の世界を見ていくと、社会生活のさまざまな場面での国際化が進展している。これから社会に出ていく高校生にとっては、国際化が如何に進展しているのかを学ぶことはたいへん重要なものとなってきている。

そこで、生徒自身の「身のまわりの国際化」、とくに「身のまわりにあるもの」から、実際の国際化の進展を体験し、そこから国際化の進展について考えさせよう。

2. 身のまわりにある輸入品を知る

まず、自分たちのまわりにどれだけの輸入品があるのかということを生徒が認識しなければならない。そのため、近年話題になっている、BSE（牛海綿状脳症）の影響から牛丼チェーン店がメ

ニュー変更を余儀なくされている問題等を取りあげ、なぜ、メニュー変更を余儀なくされているのかということを生徒に発問し考えさせる。その中から、外国でBSEが発生し、外国産牛肉の輸入が停止されてしまったため、牛肉の在庫がなくなりメニュー変更を余儀なくされている状況、さらに、日本は牛肉以外にも多くのものを輸入に頼っていることを説明する。その際に、図1（「高等学校新地理A」p.32）を利用し牛肉・まぐろの輸入先を挙げさせ、外国への依存を理解させる。さらに、経年変化を読み取らせることから地理的技能の向上もめざす。

3. 身のまわりにある輸入品を探す

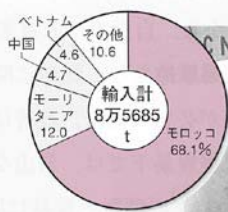
導入で取り上げた牛肉・まぐろの輸入量の増加から発展させ、生徒の持ち物の中の輸入品、教室の中の輸入品を、さらに、宿題で家の中にある輸



図1 「高等学校新地理A 最新版」p.32より

クローズアップ モロッコの「TAKO」漁

モロッコの人々にはたこを食べる習慣がない。しかし、アフリカの北西岸沖はたこの世界最大の漁場であり、モロッコではたこ漁がさかんである。トロール漁船によって漁獲されたたこは、船上で内臓を取り除かれ、急速冷凍されてから、箱につめられる。箱に「TAKO」と表示されているように、冷凍されたたこのほとんどが日本に輸出される。たこはモロッコにとって重要な輸出品であり、良質なたこを安定して日本に供給するために、資本や技術の導入など、さまざまな努力がなされている。



▲⑥日本のたこの輸入(2001年)〈アグロトレードハンドブック2002〉

▶⑦日本に輸送されるたこ(モロッコ)



図2 「高等学校新地理A 最新版」p.33より

入品を探させる。そして、次の授業で身のまわりにある輸入品や、それがどういった国から輸入されているのかを生徒に発表させる。発表されたものの輸出元を集計しクラス内でどのような国からが多くなっているのかを考察し、図3のように図化することにより、さらに理解を深めていきたい。

また、日本に輸入されている品目のみに注目するのではなく、輸入している側の国の様子を理解するためにも、ここでは図2の「クローズアップ」を利用したい。このクローズアップでは、モロッコにおけるタコ漁がとりあげられている。モロッコではタコを食べる習慣がないにもかかわらず、日本に輸入されているタコの68.1%はモロッコで漁獲されたものである。また、近年ではタコの他に、マツタケの輸入も増えてきている。

4. おわりに

最後に、本単元のまとめでScene 1～3に挙げられている題材で身近な地理情報を集め、白地図

を用いて、地図情報化を行わせる。

とくに本校は、選択章2「身近な地域の国際化の進展」で取り上げられている群馬県太田市に隣接しているために、図4のScene 3「外国料理の店について調べてみよう」はその予備調査として用いることができたいへん有効であると考えられる。

①身近なものの生産国や輸出元を調べた例

🔍もち物の中から

| 製品名 | 国名 |
|--------|--------|
| ① 豚肉 | 中国 |
| ② 携帯電話 | スウェーデン |
| ③ かばん | フランス |
| ④ 靴 | 中国 |
| ⑤ 財布 | イタリア |
| ⑥ プラウス | 中国 |
| ⑦ セーター | ベトナム |

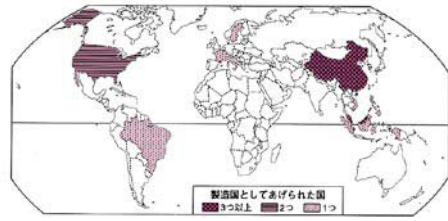


図3 「高等学校新地理A 最新版」p.38より



Scene3 外国料理の店について調べてみよう

- 1 地元の飲食店に関するデータを、地域の情報紙や電話帳などを用いて調べよう。
- 2 町のなかにある外国料理店の数を国別に調べ、表にまとめよう。
- 3 表にまとめた情報を地図化しよう。

図4 「高等学校新地理A 最新版」p.39より